

編集後記

▼『現代宗教研究』第五十六号をお届けします。

▼第五十四回中央教化研究会議は令和三年（二〇二一）九月九日に「SDGsから仏教者を問い直す ジェンダー平等を契機に新たな教師像を構築する」というテーマで開催されました。本年度は未だコロナ禍の渦中ということ、Web会議サービスZoomを使用した会議形式を用いました。基調講演として「アユス仏教国際協力ネットワーク」事務局長の枝木美香氏にSDGsの基本的理解の必要性と現代日本仏教との関係について、また「SDGsおてらネットワーク」代表の西永亜紀子師より日本仏教界におけるジェンダー問題について講演していただきました。その後問題提起と分散会を行いました。分散会ではSDGs、とりわけジェンダー問題について座長のもと話し合いが行われました。基調講演と分散会の詳細内容につきましては誌面をご覧ください。SDGs全体では論議が多岐に分かれる嫌いがあったため、特に今回は仏教界におけるジェンダー平等を一つの焦点としましたが、現代日本仏教界の抱える問題は、分散会での皆様の議論から浮かび上がってきました。中央教学研究会議は各管区教研委員が出席する会議ですが、如何せん男性ばかりの参加者になってしまいます。そこで今回のテーマを鑑み、敢えて「女性教師の会」の皆様にも各分散会

意見を述べていただきました。

▼宗教人類学研究者の竹倉史人氏には、御著書の『輪廻転生（私）をつなぐ生まれ変わりの物語』の内容を中心に、輪廻転生について宗教学的立場から講演して頂きました。竹倉氏にはこの他に当研究所発行のブックレット、『仏教と霊的体験』でも「宗教体験とその資源化」というタイトルで講演を頂いています。福井良應師は真言宗御室派僧侶で総本山仁和寺において様々なプロジェクトに参画されているだけでなく、近年注目されている認定NPO法人「おてらおやつクラブ」にも参加しておられます。様々な見地から寺院の未来を見据えた試論を頂きました。

▼今回の研究ノートは研究員の中から、古河良啓師、藤崎善隆師、岡田文弘師、高野光祐師よりそれぞれ特色ある論考を載せることができました。これらは現宗研の研究例会で発表されたものですが、ご一読頂き、各研究員がどのような課題をもって調査研究に取り組んでいるのかを知って頂ければ幸いです。

▼年度途中で宗務内局の交替があり、それにもなつて三原正資所長から赤堀正明所長に代わりました。三原前所長には十二年間に亘るご指導に深く感謝申し上げます。また赤堀新所長のもと一層充実した研究体制を構築していきたいと思えます。